

■研究推進委員会 2017年度 活動報告書

提出日：2018年3月20日

学術委員会承認日：2018年4月11日

名 称	生態工学研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：倉本宣（明治大学）
幹 事	氏名（所属）：八色宏昌（景域計画（株）） 連絡先（e-mail アドレス）：yairo@keiiki.co.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（（株）地域環境計画）、大澤啓志（日本大学）、勝野武彦、亀山章（（公財）日本自然保護協会）、黒田貴綱（日本大学）、近藤哲也（北海道大学）、園田陽一（（株）地域環境計画）、趙賢一（（株）愛植物設計事務所）、徳江義宏（日本工営（株））、中尾史郎（京都府立大学）、並木崇（（公財）世界自然保護基金ジャパン）、中村忠昌（（株）生態計画研究所）、春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学）、逸見一郎（（株）地域環境計画）、森本幸裕（京都学園大学）、養父志乃夫（和歌山大学）、渡邊敬太（箱根植木（株））
今年度 活動報告 成果	<p>1. 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」（年4回）および「用語解説」の企画立案、編集作業を実施し、学会誌に「生きもの技術ノート」を年4回連載した。テーマは「生濁度の強い水中における水草の効率的な撮影方法」、「小型無人航空機（UAV）による基図作成」、「土壌改良により砂浜の在来植生の遷移を早める技術」、「音声認識技術を用いたシマフクロウの生息調査」である。同時に用語解説として「環境DNA」、「Eco-DRR」、「獣害対策用防護柵」、「音声モニタリング」を掲載した。</p> <p>2. シンポジウムの開催 平成29年度日本造園学会全国大会において研究委員会フォーラム「立地適正化計画と生物多様性」を開催した。</p> <p>3. 出版活動 地人書館より出版予定である単行本「絶滅危惧種の生態工学（仮題）」の編集を行った。</p> <p>4. 平成30年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの企画立案 平成29年度に引き続き、平成30年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの開催を目指し、テーマ「都市林の生態系サービス活用ー都市林業の可能性を探るー」および「近畿・中国地方のランドスケープエコロジー」を企画し、ミニフォーラムに応募した。</p>
次年度 活動計画 及び 想定される 成果	<p>1. 活動計画 (1) 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 月に1回研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」（年4回）および「用語解説」の企画立案等を継続的に実施する。 (2) 平成31年度日本造園学会全国大会のミニフォーラム企画準備 平成31年度日本造園学会全国大会のミニフォーラムにおいて平成30年「都市林の生態系サービス活用ー都市林業の可能性を探るー」の議論を踏まえた「新たな都市林のあり方（仮）」を議論するシンポジウム開催を目指す、企画立案、開催準備を行う。 (3) 単行本「絶滅危惧種の生態工学（仮題）」の出版 現在編集中の単行本「絶滅危惧種の生態工学（仮題）」を地人書館より出版する。</p> <p>2. 想定される成果 平成30年度開催MFの議論の成果をもとに出版化することやMF開催を通じて都市緑地分野及び社会に対して学会活動の成果をPRすることができる。</p>